

〔社会医療法人 中央会 尼崎中央病院 内科〕

【研修の特徴と内容】

当院は、日本内科学会認定教育関連施設、日本循環器学会専門医認定施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本血液学会認定医研修施設、日本消化器病学会認定医研修施設、日本糖尿病学会認定教育関連施設、日本血管内視鏡学会教育認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設である。

当院では、あらゆる患者に対して適切且つ迅速に検査、診断し治療を提供するために、真の general physician とはどのように対応すべきかを研修する。そのため救急患者に対する救急医療、一般外来診療や病棟診療を中心に general physician としての心構えや基礎技術を研修する。

さらに血液内科、消化器内科、循環器科、糖尿病内科の専門医が、当院の特徴である血液疾患、消化器疾患、循環器疾患、糖尿病の研修指導を行う。

血液内科では白血病や悪性リンパ腫などに対する化学療法にのみならず、高度医療技術である自己末梢血幹細胞移植の採取法や凍結保存法についても研修する。

消化器内科では、逆流性食道炎、胃十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患、大腸ポリープ、胃癌・大腸がん等の消化器癌、胆石症・総胆管結石、ウイルス性慢性肝炎・肝硬変等、幅広い疾患の診断・診療を行っている。上部・下部消化管内視鏡検査、胃・大腸の ESD・EMR、また ERCP 関連処置（EST、ENBD、ERBD 等）を施行しており、研修中には積極的に上記検査・処置に参加し、学ぶことができる。

心臓血管センター（循環器内科）では、心臓血管外科と連携し、虚血性心疾患、心不全、不整脈、閉塞性動脈硬化症などの末梢血管疾患、高血圧などの生活習慣病といった循環器一般について診療を行っている。研修では、希望に応じて、冠動脈造影、冠動脈形成術、ペースメーカー植え込み術といった侵襲的治療法についても学ぶことができる。

（1） 血液内科

1. 骨髄穿刺、骨髄生検、腰椎穿刺などの検査手技の研修
2. 白血病、悪性リンパ腫に対する化学療法
3. 自己末梢血幹細胞移植の採取法や凍結保存法
4. 無菌室管理法（無菌室 12 床）

（2） 消化器内科

1. 画像診断： UGI、Ba-enema、DIC、DIC-CT、腹部 CT、dynamic-CT
MDCT、腹部 MRI、MRCP、CT コロノグラフィーなど
2. 超音波診断・治療： 腹部 echo、echo 下生検、MCT など
3. 消化管内視鏡検査・治療： EGD、CS、ERCP、ENBD、EST、EVL
Polypectomy、EMR、ESD、PEG、STENT 留置術等

（3） 心臓血管センター（循環器内科）

1. 非侵襲的診断法
心電図、ホルター心電図、運動負荷心電図、ABI
循環器バイオマーカー
心臓超音波検査、頸動脈エコー、経食道エコーなど各種エコー
心臓 CT、大血管 CT、MRI（冠動脈、心筋評価）
2. 侵襲的診断法
冠動脈形成術（バルーン・ステント治療；PCI 治療）
冠動脈造影法
血管内超音波（Gray-scale IVUS, VH-IVUS）

経皮的抹消動脈形成術（PTA）
ペースメーカー植え込み術
一時的ペーシングカテーテル挿入術
スワンガンツカテーテル挿入術
下大静脈フィルター挿入術

【教育に関する行事】

木曜日 17：00～18：30 内科カンファレンス
金曜日 8：00～ 8：55 医局会、抄読会、症例検討会

指導医等

院長：伊福秀貴
日本内科学会指導医 立石 順（心臓血管センター長）、兵頭 英出夫（内科）

研修実施責任者

内科部長：高塚広行
臨床研修指導医：吉田純一

【社会医療法人 中央会 尼崎中央病院 外科】

【研修の目的と特徴】

現在の初期研修医は必ずしも将来外科医になることを希望している医師が多くはない事を踏まえて指導を行う必要がある。全ての研修医に対しては内科系、外科系すべての医師として外科的な治療対象疾患に対し最小限必要な患者のプライマリー・ケア、基本的診療能力と処置を体得してもらおう。こうした学習の中で外科診療への興味を養い、さらに手術適応の決定、適正な手術と術後管理の基本を経験してもらいながら、将来の外科医希望者の研修準備となるべく、具体的な臨床診療を担当して頂きます。

【研修目標】

1) 基本的な診察法の習得。

- ①問診（患者又は家族より、適切な時間内に、必要十分な情報を得る。）
- ②全身の観察（バイタルサイン、皮膚の状態、精神状態、浮腫、循環障害、など）
- ③頭頸部、胸部の診察（リンパ節、甲状腺、呼吸音、心音、乳房など）
- ④腹部の診察（腫瘍、腹水、腹膜刺激症状、手術瘢痕、肛門診など）
- ⑤皮膚、四肢の診察（発疹、創傷、静脈瘤など）

2) 基本的検査を受持患者の検査として経験し、結果の確認、結果を解釈し診断できる。

血算、生化学、検尿など簡易検査、生理学的検査による全身状態
X線、消化管内視鏡検査、MRIなどの画像診断

3) 下記の基本的な治療法・手技ができる。

治療法：抗生剤、鎮痛剤など一般的薬物療法、抗腫瘍化学療法、輸液・輸血・血液製剤の使用、呼吸・循環管理、栄養法（食事摂取、経腸栄養、中心静脈栄養）

手 技：注射法（皮内、皮下、筋肉、静脈）、採血法（静脈血、動脈血）、穿刺法（中心静脈、腹腔、胸腔、腫瘍など）、導尿法、洗腸、圧迫止血法、包帯法、消毒法、ガーゼ・包帯交換、ドレーン・チューブ類の管理、胃管の挿入と管理、局所麻酔法、簡単な切開・排膿、結紮法（糸結び）、皮膚縫合法、軽度の外傷・熱傷の処置

4) がんの診療を中心に終末期医療について学習する。

- ① 告知をめぐる諸問題への配慮
- ② 精神的ケア。
- ③ 苦痛緩和のための薬剤使用（麻薬など）。
- ④ 臨終の立ち会いを経験する。

【研修に関する行事】

毎朝 15～30 分の病棟カンファレンス、毎週火曜日・木曜日・金曜日に術前、消化器疾患カンファレンスを行っている

指導医等

消化器センター長（副院長）：松原 長秀